

## 事例13

### アメリカ・アレナス ワークショップ・ノート

島根県立美術館05, 10, 30

I 研修室にて スライドを使って …略

II 作品使って 館蔵品による鑑賞 …略

### III 研修室にて午前中のまとめ

●原則は、聴いて、いい会話をしようと思ったときに何をすべきか？より活発でよい会話を。

Q：よい会話のコツは何でしょう。

Listen + Thinking ◎ it

Open Observation Share

見る・注視

共有する・均等に分かち合う

Rethink

関係づくり

考え直す

Relook

Newideas

見直した

New relation 新しい関係・関連

reward to talk 報いる・報酬 話したくなる

人 ヒューマニティー

※英字は板書記録

●モデレーターとしての自分の役割

何をしたのか分からないくらいで成功といえる。発言の意図としては、先へのつながりを予想する。

1) 「Look」「Think」「Talk」明確に話す。時に「Listen」を加えることがある。

2) Connect → important LINK

3) Pick ideas → Develop とりあげて、発展させる

とりあげて 他の発言をつなげて・広げる

4) Comment(ed) 「コメント」論評・批評・意見をして、リンクを成立させる

5) 「えっ？それってどういうこと？」 Paraphrase 言い替え・釈義 ≡ Translation  
「フンフン、ウンウン」だけだと、正しい答えが出るまで教師は待っていると思われる。

「すごいね」の連発もまずい。正直におもしろくないことは、伝えるべきである。

自分らしさ出してよい。本気で対人間として対応すること。

1回で発言が掴めないときには、

「もう1回、ちゃんと理解したいので、別の言い方で言ってくれる？」

「私は、このように聴いたけどあっているかな？」

「あの人の言ったことが、正しく分かって、代わりに言ってくれる人いるかな？」

“他の人のくつを借りる”

「なるほど、私はそうは思わないけど、多分あの人は～思っている。」

“（賛成はしないけど）一時その人の考えをしてあげる。”

「先生違うよ、あの子はこう言ってるよ。（Best）」

#### 6) 成功するためのポイント

- ・教室で机は使わない。椅子は円形に配置する。
- ・見合うように 会話の相手を物理的に示す。
- ・発言が特定者に偏るとき 出ないところに立ち、アイコンタクトを増やす。  
(あえて、反対に立つことを意識してやる)
- ・問題児とされている子 みんなが聴き、教師が聴くことで受け入れられたことになる。
- ・優等生 “ ” 優等ぶりが目立たず、がっかりするかもしれない。
- ・平素のクラスのダイナミズム・雰囲気を変える価値がある。  
他教科授業の人間性・雰囲気に働きかける
- ・アカデミック教科の質問…IQでなく、たまたまその答えを知っているかどうか過ぎない。
- ・スライド…平等なスタートであり、同じ経験値。
- ・見たものを観察して考える行為は、算数などに反映する。
- ・書く～話すの別の形&読む～聴くことの別の形として、読み・書きの向上に寄与する。
- ・流行し支持されることは、教育的効果の証であろう。

#### IV 研修室にてスライド映して講演 …多くは、アレナスの著作で確認できるので一部省略

作品に対する子どもたちの反応例を示していくが、国を超えて共通の反応が見られる。

どうして子どもはどのように考えるのかを意識してみることが大切。

実践で何が起こるのかの予測・予想に役立つ。

例1) 鈴木春信、版本『青楼美人合』(1770年刊行、五冊目)より部分 …浮世絵「手鏡」

「Watt's going on? 何が見えますか。行われていますか。」

<子どもの反応例が紹介される>

##### 1) 話をつくりたがる傾向がある。

観察力がすごい、大人より興味もって観察し、観察を入口として話を広げていく

見えることをあたかも本当のように連想する

##### 2) 自分の文化・歴史・経験に引きつけて考える。

必ず自分のコンテキストで話す。

浮世絵の空間性を知らない場合は、影がないことが了解できずに窓として納得するしかない

“そうかどうか分からないけれども” というように前置きしない、考えない

見たこと 立証するために考える

「だって…だから、～だもん。」というように、見たことを正当化する。

言うことがころころ変わるが、見た瞬間は絶対的

子どもの発言・速さを教師は止めずに、発言をつなぎ合わせて織物にする。

例2) ロメア・ハワード・ピアデン《ショータイム》<ジャズ>シリーズより1974年

「何が見えますかーどうしてそう見えますか・思いましたか」

「シンガーがめった打ちにされています。」(予想外) → 「他の人は、どう思うの？」

正しい方向に導こうと考えるのではなく、もう一度見直す・考え直すよう促すことで、ディス

カッションの活性化を目指す。

出てくる話は異なるが、「ひび割れ、顔のくしゃくしゃ」の事実の一つで共通しているので、そこに働きかける。

例3) 古代エジプト壁画 新王国時代、B.C.1300年頃 …2段の構図、農耕場面

「美術史を教えるかどうか、インフォメーションとして与えるかどうか」

子どもの質や教育の目標による。

やりすぎると正解（知識）あると思わせるので注意すべき（特に低学年では）。

単純に、そして言ったことに関係あることは、教えてかまわない。

少しの美術史の知識が正解方向を指すとは限らない。

子どもは個人的なことを出しがちであり、自国の文化的背景には思い至らないものである。

例4) 受講者が見て考えるレッスン①

アメリカの動きを意識しながら参加するよう促される。

「これ何だろう？あれ何だろう？何が見える？」

「私に話して」

◎What's going on? …思い付いたことのリストが彼らの中で消化されて発言されるような問いかけを考えてほしい。

What's seeing on? …seeing見えるを使用すると見えるもののリストアップになりがちなので使わない。

「組んでいる手が好き。」→ 「私も好き。それが、どうなの？」

「モデルの考えに繋がる。」→ 「内面性？」

「目は夢見ているが、模様の目はこっち見ている。」→ 「考えたこともなかったね。」

「黄色の部屋の中」→ 「もう少しコメント加えて」

「話そうとしては…」→ 「確かに彼女のもとから」

◎パラフレーズ…オウム返し コメント…少し加えて話す コネクト…三者の発言をリンク  
<気味悪い> 一つのアイデア

例5) レッスン② 「雲海を見下ろす岩頭に立つ紳士」

「 ??? 」→ 「あなたが言おうとするのは～ですか。」

「風が吹いている」→ 「雲の形から、そう思ったのですね」

「正装のシンボリックさ+下に降りてやっていこう」

…同じ観察からの2つの解釈を1つにした。

…先に発言した人の気持ちをつないであげる

◎意見たくさん出たとき summarize …まとめる、要約する

顔見えない、考え分からない、あり得ない風景に対して

栄光か悲劇か、海か霧か雲かはっきりしない。我々は困惑する。地上なのか天界なのか。

彼はどんな気持ちだろうか。

◎例えば今までに出たアイデアをリサイクルし、1つのセンテンスに

ロマン派、自己と自然、文化と非人工、人間と神

みんなから出たことを1文にし、アメリカの解釈を加えて1つにする。

子どもの反応では、スイスにある風景なんですよ。子どもは風景より何でこの人はここにいる、何をしているかに集中的に反応する。

## 例6) レッスン③ 「男が滝にうたれるような不思議な絵」

この絵から見て思った（実際に見た）ことか、それとも連想なのか、確かめの必要

「??」→ 水ではなくて、光ですね リンクしてクリアーに

「ロボット、雲、はっきりしない、分からない、…」→ 6つの共通点は？

「あり得ないもの」

彼を見えなくしているものは様々な要素があるが、やめられない。

見ているとイメージはいろいろにシフトしていく、正解を知っていたら広がらない。…要約  
サマリー、サマライズ

作り手の意図 ≠ 見ている人の見た・考えたこと

アーティストの作る仕事は50%いい仕事で、力強いものは解釈して語り継ぐことができる

この作品は「ビニールビデオのスチール写真」で、滝壺に飛び込んだ人の上昇に合わせてビデオカメラを動かして作っている。

作られた手法 ≠ イメージの解釈

◎手法を先に話すと感じたこと出てこない。

絵のもつ何かを殺してしまいかねない。アートはアーティストで完結する行為。

よいものなら時間文化を超えて語り継がれる。行為そのものがアート。でなければ数千年前の作品をアートとしない。

「見て、解釈する」ことは、ずっと昔から行われてきた。キャプションに頼るのはドキュメンテーションでアートではない。

## V 別研修室にて出版予定著作の最終稿を見る …「MITE!」

## VI 質疑応答

### 1) 意見が出ないときや苦手な子への対応

発言することよりも、集中して見ているか参加しているかを注視する。

普段子どもをよく知った状態でセッションを始めるはずだから、それを活かす。

既に発言した子を指名して、きっかけづくりをする。

応用できる可能性のある方法としては、いくつかある。スタイルは様々なので試してみてほしい。

きっと子どものイメージを活性化するはずだ。

①スライドの鑑賞 → 見えたことを書く → 「何があった。どんなこと見えた。」

②印刷物（ポストカード）配布 → （宿題として）見えたこと書こう・家族と話してみよう  
→話題に出たことを話す・プレゼンする → その子のプレゼンについて話し合う

③小グループでのディスカッション

④学生にモデレーターをさせてみる…8～10日の練習の後ギャラリートーク、チャイルドトーク

⑤A児の宿題→B児→C児 回して記述を追加していく

### 2) 鑑賞に取りあげる作品選出のポイント

①彫刻は、二次元性・正面性などスライド化に難点がある。

抽象作品も同様の理由でスライドに適さない。本物に接したときのオーラ・本物性が失われる。

具象画は、物質性より物語性・ドラマ性が前面に出やすい。

ポロック、モジリアニの抽象性は印刷で伝わりにくい。

②子どもが好むのは、怖いもの（スケアー）・ストレンジ・ファンなもの。同じ子どもが描いたり作ったりしたものが好まれると思いがちだが、そうではない。

MOMAで多数のスライドから鑑賞に取りあげたいものを選ぶ調査では、「ヒューモア・ストレンジネス・ユニーク・サスペンスな作品」が選ばれた。

③好きですかと聞いて「NO」の方が、たくさん意見が出る。好きなものは、理由を尋ねても「ウーン、きれいだから。」だけで、後が続かぬ。

④なるべく異なる時代・文化圏・手法のものをとりあげる。

⑤あえて「中もの」で、多様なドラマ展開を期待する。

原則的なメソッドでできたら、何でもできる。

### 3) サマリーの要点

サミュエル・ベケット Samuel Beckett の詩

TRY AGAIN

FAIL AGAIN

FAIL BETTER

リラックスして、楽しんで。

### 4) 事前の準備・予備知識の必要性

低学年においては美術史不要。

絵を隅々まで見ておくこと。子どもの発言中にふり返らなくても、絵のどの部分のことを発言しているか分かる程度に覚えておくことで、発言者から視線を離さず注目できる。

美術史上の解釈も一つの解釈にすぎない。ダイヤモンドが見方でカットが異なって見えるようなもの。

知っている作品と未知のもので試してみたところ、既知の作品では知っていることの影響が出た。

美術館で大人相手のギャラリートークでは、質問が出るので、知っておくことが重要。

### 5) 理想的な鑑賞法

表現者は作品のテーマについては語るが、テーマ以上のものを語るのがアートの醍醐味。

作品は媒体に過ぎない。ピカソは、描くのが仕事で見るのはあなたの仕事だと言った。

芸術は思想性に限らない。生け花・書道・切り紙は、形式の要素が勝り、日本の感性のよさを感じる。

### 6) 芸術の価値

見る人が、作品に見いだすもので、人によって違う。

### 7) 授業であれば評価が伴うが、何を評価するのか

評価しないこと。参加していたかどうかが大切。（自分は教育制度の外側の人間なので）

クライアントをジャッジしたがるが、与える人（指導者）を評価すべきではないか？。

### 8) 初めて出会う子どもたちのウォーミングアップ法

話させるようにするには、しゃべれるような環境が必要。

「女の人が見えますね」などのちょっとしたインフォメーションを短く・インパクトをもって。

有効なインフォメーションとしては、

WOW! わー 他の子に話したくなるような

HUMM… なるほど 関係してるねー、見たこと考えたこと発言に関係あること考えさせる

AHA! そっか 出かかっていることを言葉にしてあげる

※そこにある作品に見えることから、必然性をもって伝えることがポイント  
レクチャースタイルの鑑賞法は、与えるだけのスタイル、あるいはトークである。  
自分で考えて話す（対話型）の方が、印象深く残る。

9) 言葉で表せないことを言葉で扱う対話型

作家がビジュアルに表現することと見る人が言葉にすることは、別のこと。

感じたことや見て考えたことを言葉で表す。絵から感じることは、日々変化をする。感じたことをシェアし合う。

10) アメリアへの批判に対する反論は？

①感じたことを言葉にする言語優位の鑑賞法？について

そうかもしれないが、言葉は重要なツールである。(唯一とは思わないが)

人間としての生き残りが“言葉”にかかっている。脳の部位で未使用部分がある。

言葉で芸術鑑賞するという一つの分野・オプションである。

他人が作品をどう見るか知りたい・聞きたい時には、言葉が有効である。

人々がコミュニケーションするためにアートを使用している。芸術作品も好きだが、作品を前にした人々に何が起きるかに興味がある。

感動をシェアすることで、感動が減りはしない。

②美術館収納作品を対象にしているが、それだけではないのでは？について

コップ、トラックに轆かれたダンボール、テレビ画面のスチール写真（名犬ラッシー）も使う  
子ども対象のときは、来館してほしいから、あえて美術館を使う（笑い）。

別に美術館の聖的な部分を下げるとはなく、大衆化したい。

現実には、マイノリティーはほとんど来館できない。

美術館と学校とのパートナーシップにより、享受できればと願っている。

学校の学習がきっかけとなって私的に来館し、本物の衝撃受ければ生涯の宝となる。

11) 小グループでの話し合い

それもできるし、全体でシェアする方法もあるし、多様な方法が可能である。

日本史の授業で、絵を見せて話し合う方法があるように、他の教科にも有効な方法である。教科書の文字より絵の方が効果的。

絵の可能性、言いたいことを先に言わせておいてから、リンクやサマリーをしていく。